

医療法人社団哺育会 浅草病院 訪問リハビリ広報誌

# KAKEHASHI

「かけはし」

[特集]

## 訪問リハビリにおける言語聴覚士の役割

～言語聴覚士ってどんな仕事？～

#8

2025.06



# 言語聴覚士（ST）は こんなことが できます！



言語聴覚士の仕事は大きく分けて、

**コミュニケーション障害**

**食べる事の障害**

を呈する方に対してリハビリを行います。



## コミュニケーション障害とは、

脳の損傷によって、聴く・話す・読む・書くのいずれか、もしくは全てに困難を生じている状態を指します。このような方に私たち言語聴覚士は、ご家族だけでなく友人や職場の方々と**再びうまくコミュニケーション**が取れるよう**訓練・支援**を行います。



## 食べる事の障害とは、

食事にむせてしまうということだけでなく、食事に時間がかかる・硬いものが食べづらくなった・食べ物が喉に残る感じがする・痩せてきた、といった食事全般を指します。そこで言語聴覚士は**安全に食事が摂れるよう訓練・支援**を行います。

／ 言語聴覚士による ／

## 訪問リハビリでできること

### コミュニケーション障害

- ① ことばの練習
- ② 意思伝達方法の提案  
(生活場面における)
- ③ ご家族指導



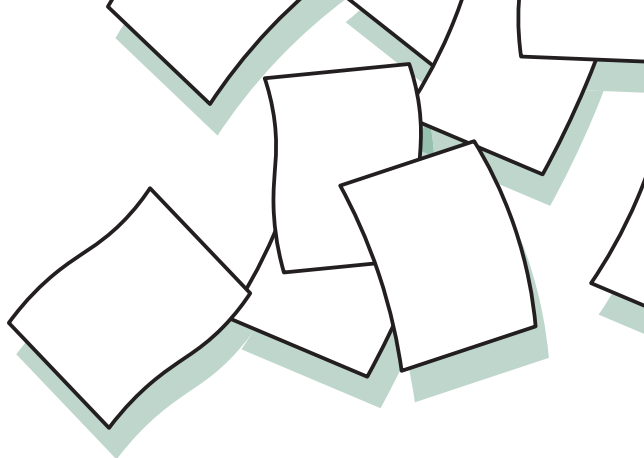
### 食べる事の障害

- ① 飲み込み練習
- ② 食形態の検討・指導
- ③ 食事介助方法の指導





# 訪問リハビリ事例



CASE

01

## 胃ろう造設者が 経口摂取可能となったケース

誤嚥性肺炎を繰り返しており、口から食べる事が難しく、胃ろうを造設した利用者様がいらっしゃいました。主治医からは口から何かを食べる事はもう難しいだろうという話でした。ご本人は口から食べ物が食べたい意欲があり、口腔周囲の運動や飲み込みの練習を行ない、半年後にはヨーグルトやゼリー等を食べられるまでになりました。

また、リハビリを継続した事により、誤嚥性肺炎を発症する事なく自宅で生活を送る事が出来ました。

この利用者様を通じ、改めて利用者様の諦めない気持ちやリハビリの重要性を感じた経験でした。



CASE

02

## 自宅という安心できる環境で 「食べる力」を取り戻せたケース

入院中に認知機能の低下で食事が摂れなくなり、胃ろうを造設した高齢の方。退院後、ご家族の「また口から食べさせたい」という強い希望を受け、当院の訪問リハビリ（言語聴覚士）が介入しました。ご自宅という慣れた環境でリハビリを続けた結果、徐々に食べる量が増え、1日1食から経口摂取が再開。ご家族も毎回リハビリに同席し、介助方法や食事内容の工夫と一緒に学んでくださいました。安全な食事ができているか、専門の歯科で嚥下（えんげ）内視鏡検査も実施し、誤嚥がないことを確認。最終的には訪問リハビリを終了し、今も口からの食事を継続できています。

入院中に食べられなくなっても、退院後の自宅での支援によって回復の道が開けることがあります。安心できる環境と、専門職・ご家族の連携が「ふたたび食べる力」につながることを実感したケースでした。

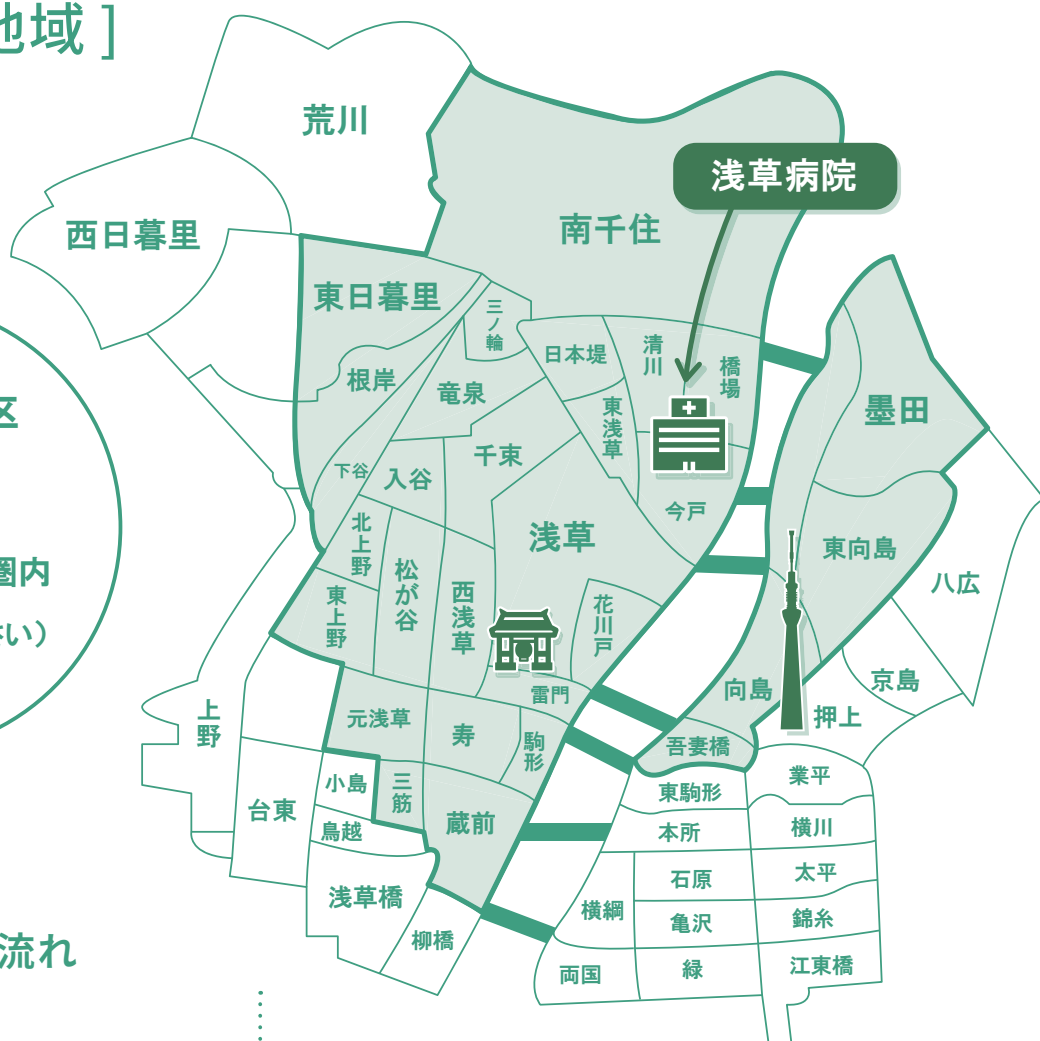


# 訪問リハビリについて

## [ 訪問対象地域 ]

台東区 / 墨田区  
/ 荒川区

当院より **3**Km 圏内  
(圏外もご相談ください)



## 訪問リハビリ

### 利用開始までの流れ



かかりつけ医か担当の  
ケアマネジャーに相談



浅草病院を受診  
(リハビリ担当者と面談)



ご自宅へ訪問  
(利用開始日はご相談  
させていただきます)

## ご利用対象

- 要支援(1・2)、要介護(1～5)認定されている方
- ※ 40～64歳までの方は、要介護状態になった原因が16種の特定疾病による場合
- ※ 65歳以上で要介護認定の方は、原則として介護保険適用
- ※ 年齢や特定疾病などにより、適用される保険は異なります
- 主治医から「訪問リハビリテーションが必要」と認められた方

QRからもお気軽に  
お問い合わせください

〒111-0024 東京都台東区今戸 2-26-15  
医療法人社団哺育会  
**浅草病院**

**リハビリテーション科**  
月～土(祝日含む) / 8:30～17:30  
日曜・年始年末 / 休日  
✉ horeha@asakusa-hp.jp

[ 患者様・ご利用者様 専用 ]  
**☎ 03-3876-1711**  
[ ケアマネジャー様 専用 ]  
**☎ 03-3876-1888**

